

## 在宅医療支援システム研究会次第

日時 平成26年9月30日（火）

18時30分～

場所 介護老人保健施設くろかみ 研修室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 報告・紹介事項

- (1) 朝日新聞 遠隔医療関係記事（9/14 掲載）について
- (2) 第3回多職種連携会議（9/25）について
- (3) がん診療連携について考えるP2（9/24）について
- (4) Z連携改修状況について
- (5) 第42回備北夏期大学（9/6）について
- (6) その他

### 4 協議事項

- (1) 「ペコロスの母に会いに行く」上映会について
- (2) Z連携説明会について
- (3) その他

### 5 その他

次回開催日

平成26年 月 日（ ）

# 患者を生きている

2600 つながって

## 遠隔医療回

緑内障と診断された北海道帯広市の女性(79)は2009年4月、芽室町の公立芽室病院で検査を受けることになった。

検査は「日内変動測定」で、朝から夕方まで約2時間おきに眼球内の圧力(眼圧)を調べる。眼圧が高くなると視神経の障害が起き、緑内障の悪化の原因になる。この検査をしたのは、一日の間でも、時間によって眼圧が変動することがあるからだ。

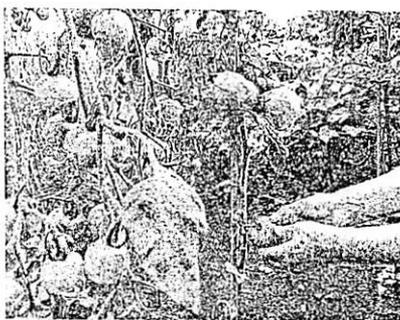
「右30、左24」。眼圧の正常値は10〜20。水銀柱ほどとされるが、午前中にそれを上回った。約6時間後の夕方、数値が「右51、左40」まで急上昇した。放置すれば、そう時間をおかずに失明して

## トマトの色見える喜び

もおかしくないレベルだった。「これはちょっと、待てない」。眼科診療部長の大西通広さん(49)はすぐに、旭川医大病院へ連絡をとった。

翌日、女性は芽室病院を再受診。芽室から150キロほど離れた旭川をインターネットのテレビ電話でつなぐ「遠隔診療」を受けた。芽室病院では08年ごろから、本格的に取り組んでいた。より専門的な治療が必要な場合、医療環境の整った旭川に紹介する。

女性が診察室に入ると、画面には医師が映っていた。旭川医大病院の眼科医だった。「大丈夫ですから、旭川へいらっしゃい」。その言葉に、安心感



家庭菜園。手入れは大変だが、収穫は楽しみのひとつ。北海道帯広市

を覚えた。「よろしくお願ひします」。画面の向こうの医師に向かって、頭を下げた。

数日後、旭川医大病院に入院

し、手術を受けた。眼球内を流れる液体(房水)の流れが悪くなり、眼圧が高くなっていった。このため、手術で房水の新たな通り道をつくってやり、眼圧を下げる。水晶体が白く濁って視力が落ちる白内障も見つかったため、一緒に治療した。

経過観察を経て1カ月後に退院し、帯広の自宅へ戻った。

今年7月、女性は芽室病院で大西さんの診察を受けた。右16、左14。眼圧は正常の範囲内におさまっていた。点眼薬を使い、定期的な診察を受け、様子を見る。

この夏、家庭菜園のトマトが豊作で、よくとれた。畑に出ると、深い緑のなかに、赤や黄色が輝いている。「物が見える喜びを感じています」

# 患者を生きている

2601 つながって

## 遠隔医療回情報編

医師や看護師が十分にいない。そんな悪条件を打破しようと、情報通信技術を使った、テレビ電話などによる「遠隔医療」が広がっている。

連載では、旭川医大を中心とした眼科での取り組みを紹介した。旭川医大は、インターネットが普及する前の1994年から遠隔医療を開始。99年、国内初の遠隔医療センターを設立した。

背景には、北海道の地域事情がある。吉田晃敏センター長によると、北海道は人口10万人に対する

医師数は全国平均とほぼ同水準だが、医師の約6割は札幌と旭川に偏り、医療過疎になっている地域が多いという。患者は遠くから足を運ばなければならない。冬になれば雪などで交通事情も悪くなり、悪条件に拍車がかかる。

「患者や医師が移動するのではなく、医療情報を動かそうと考えた」と吉田さんは話す。

患者は家に近い医療機関で受診し、主治医が必要と判断すれば、旭川医大とテレビ電話をつないで一緒に診察する。患者は基本的に

## 通信料の患者負担、課題

手術のときだけ旭川医大に行けばいい。経過観察は家の近くで受ける。患者にとっては体力的な負担も減り、家族の付き添いなども含め交通費も抑えられる。

岡山県新見市も先進地のひとつだ。山に囲まれ、高齢化率は37.6%と全国平均(25.8%)を大きく上回る。医療や介護のニーズは高まっているが、医師や看護師は不足しているという。

2004年、新見医師会を中心に遠隔医療が始まった。注目されているのは、在宅医療と組み合わせ

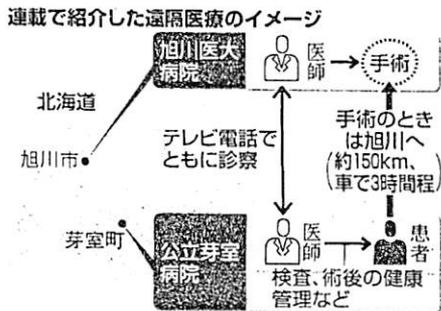
せた取り組みだ。訪問看護師が携帯型のテレビ電話を持参して患者

宅を訪れる。ケアの際に主治医とつないで様子を見てもらい、助言を受ける。

太田隆正・医師会長は「状態が悪くなったときに、逐次報告を受けることが可能。住み慣れた家でのみとりにも役立つ」という。

ただ、課題はある。インターネット接続料の患者側の負担もそのひとつ。新見市では、遠隔医療を受ける患者を増やすことができない最大の理由になっているという。太田さんは「遠隔医療に対する診療報酬が十分につかなくては、普及は難しい」と話す。

(武田耕太)



## ■Z連携システム改修進捗報告

### (1) にいみ介護サービス空き情報掲示板 2014/10 下旬リリース予定

訪問系サービスや施設の空情報等を気軽に投稿して連携できる掲示板です。

ログインなしでどなたでも閲覧できます。

情報の掲載はZ連携にログインして行います。

「空き情報」または「問い合わせ」を選択

サービス名（ショートステイ、訪問看護、訪問介護、訪問入浴、その他）を選択

該当日を選択

問い合わせ先はログインした方の機関名を自動表示（修正可能）

必要に応じてコメント追加

**Z連携**  
在宅医療・介護連携推進ツール

ログイン

### にいみ介護サービス空き情報掲示板

**新着情報**

**空き情報** 10月1日～10月31日まで  
ショートステイクアポート生活活き館神郷 TEL 0867-72-2110

**ショートステイ** 月・水曜日の午後4時～午後5時に空きがあります。主治医への確認は事業所様でお願いたします。11月以降の利用についてはご相談させていただきます。詳細はお電話下さい。

**空き情報** 10月7日～9日  
ショートステイクアポート生活活き館神郷 TEL 0867-72-2110

**ショートステイ** SSIに空きがあります。多床室、女性のみ、新規不可。詳細はお電話下さい。毎週水曜日の入所判定会議で可否を決定しご連絡します。

**問い合わせ** 10月から施設入所希望です。  
ショートステイクアポート生活活き館神郷 TEL 0867-72-2110

**ショートステイ** 男性 80歳 要介護3  
新見市新見  
既往歴 糖尿病  
妻と二人暮らし  
入所希望理由: 妻も持病があり10月より入院予定で、介護者が不在になるため。  
詳細は電話でお問い合わせ下さい

**空き情報** 10月1日～10月31日まで  
ショートステイクアポート生活活き館神郷 TEL 0867-72-2110

**ショートステイ** 月・水曜日の午後4時～午後5時に空きがあります。主治医への確認は事業所様でお願いたします。11月以降の利用についてはご相談させていただきます。詳細はお電話下さい。

# 市民が主役のまちづくり

～島根県雲南市の小規模多機能自治～

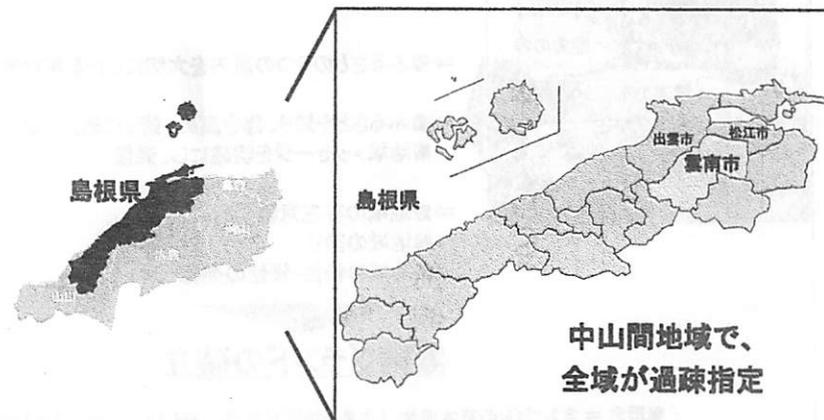
平成26年9月6日

島根県 雲南市

(政策企画部地域振興課)

## 雲南市の概要

- ・ 平成16年11月1日、6町村で合併し、「雲南市」誕生。

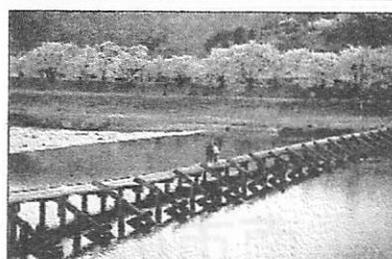


中山間地域で、  
全域が過疎指定

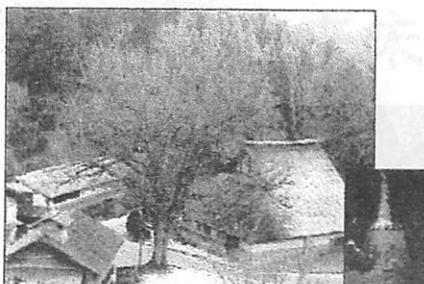
■ 面積	553.4km <sup>2</sup> (東京23区の約9割)
■ 人口	41,927人 (平成22年国勢調査)



全国最多の39個の銅鐸が出土  
(加茂岩倉遺跡・銅鐸は国宝)



【日本さくら名所】斐伊川堤防桜並木



たたら製鉄の遺構：全国唯一の現存する高殿  
(菅谷たたら高殿)



スサノノミコト、クシイナダヒメが造ったとされる  
「日本初之宮」須我神社・和歌発祥の地

## 雲南市のまちづくりの基本理念

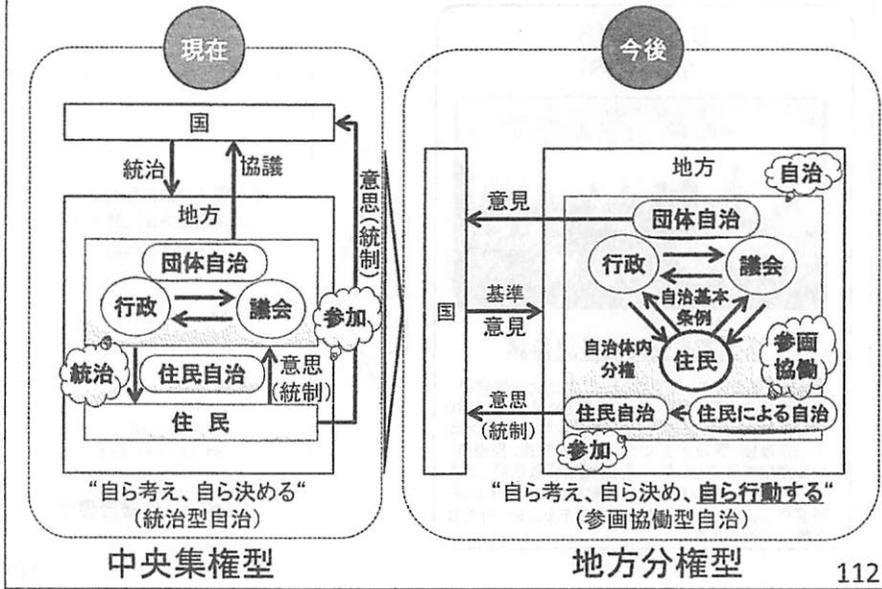
「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」

(雲南市総合計画より抜粋)

『「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」は、郷土の文化・歴史・自然をよく知り、魅力ある「ふるさと」であることを市民である私たちが自覚することから始まります。そして、この魅力ある「ふるさと」を、市民一人ひとりが誇りと愛着のある地域として磨き、高める必要があります。』

誇りと愛着ある郷土を目指し、市民は、主体的にまちづくりグループやコミュニティ活動に参加して、雲南市のまちづくりに取り組みます。行政は、市民や事業者とともに、「雲南市が自立して継続しながら、市民の満足度を高めていく」よう努力します。このような取り組みを継続することが、雲南市は市内外から魅力ある地域として認知され、人口の定住・経済活動が拡大し、税財源の涵養が進み、さらに地域の価値を磨き、高めるまちづくりの推進に取り組むことができます。』

# “垂直的”自治 から “水平的”自治への提案



(ブランドメッセージ)

## 幸運なんです。 雲南です。

わたしたちの雲南市には  
突にさまざまな幸があふれています。

美しい日本の原風景、自然の幸。  
神話に彩られた史跡や文化遺産...歴史の幸。  
毎日が新鮮、たわやかな食の幸。  
そして親(ちか)しく交わされる笑顔、人の幸。  
変化が求められる時代に、  
これだけの幸に恵まれた幸運に感謝して  
このまちに生まれ、育ち、暮らすことに誇りを持ちたい。

幸運なんです。雲南です。

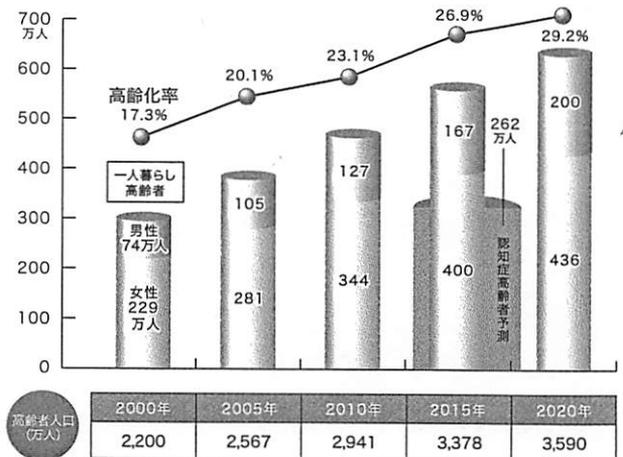
## ボランティアの輪を全国に

# 私達は地域で支え合う仕組みづくりをすすめています

少子高齢化、核家族化、女性の社会進出などにより、高齢になっての一人暮らしや親の介護問題、子育てなど、多くの面で社会の支えが必要になっています。しかしこれまでのような行政依存型の制度ではもう支えきることはできません。

さわやか福祉財団では、地域で活動するボランティア団体の設立・運営や身近な近隣活動を全国で推進しています。また、勤労者や子ども等も気軽に活動に参加できる仕組みづくり、さらに行政も企業も学校も病院も施設も、あらゆる機関を包括した地域ネットワークづくりに向けて、実践的なノウハウを提供しています。これからは地域の一人ひとりが主役です。

### 日本の高齢化の現状と予測



## 市民の声を生かした国づくりを

# 私達は政治や行政に制度・施設の在り方を提言しています

社会構造の変化により、今、日本の各種制度や施設は大きな転換期を迎えています。

さわやか福祉財団では、市民の声を政策や社会の枠組みづくりに反映できるよう、皆様の声を募り、国の政策方針の中核となる審議会・委員会・研究会等に直接参画して、市民の立場からの発言や提案を行っています。また個々のテーマに応じて外部組織と連携しながら、関係各所に強力な働きかけを行っています。

## 自分色に輝く…

# 私達は新しい生き方を提案しています

新しいふれあい社会とは、それぞれの人が自分を大切にしながら、ふれあい助け合う、そんな生き生きとした社会です。今の時代にふさわしく、互いの個性やプライバシーを認め合った新しい形の助け合い。障害のあるなしにかかわらず精神的に自立した人間同士、世代を超えて温かく、そして楽しくふれあうことができたなら、本当に素晴らしいと思いませんか？ 職場や家庭に閉じこもっているだけでは決して得られない人生の輝きが、きっと地域では見つかるはずです。

### 人が生まれつき持っているやさしさを素直に出し合いませんか？

人間関係がすこぶるドライになってしまった現代社会の中で、ボランティア活動を通じて地域社会と積極的にかかわることで人との結びつきが深められます。高齢者も本人の充足感や生きがいにつながり、また、子どもたちも、社会の一員としてやさしさや自己抑制力を育むことができるようになります。

もともと「見捨てておけない」という純粋なやさしさは誰もが心の中に持っているものです。そんな気持ちを皆で素直に出し合いませんか？

自分を大切に、互いの個性も尊重しながら、困ったときはお互いさまとふれあい助け合う、それがさわやか福祉財団の目指す新しいふれあい社会です。そのための仕組みづくりをぜひ皆さんと実現させたいと願っています。

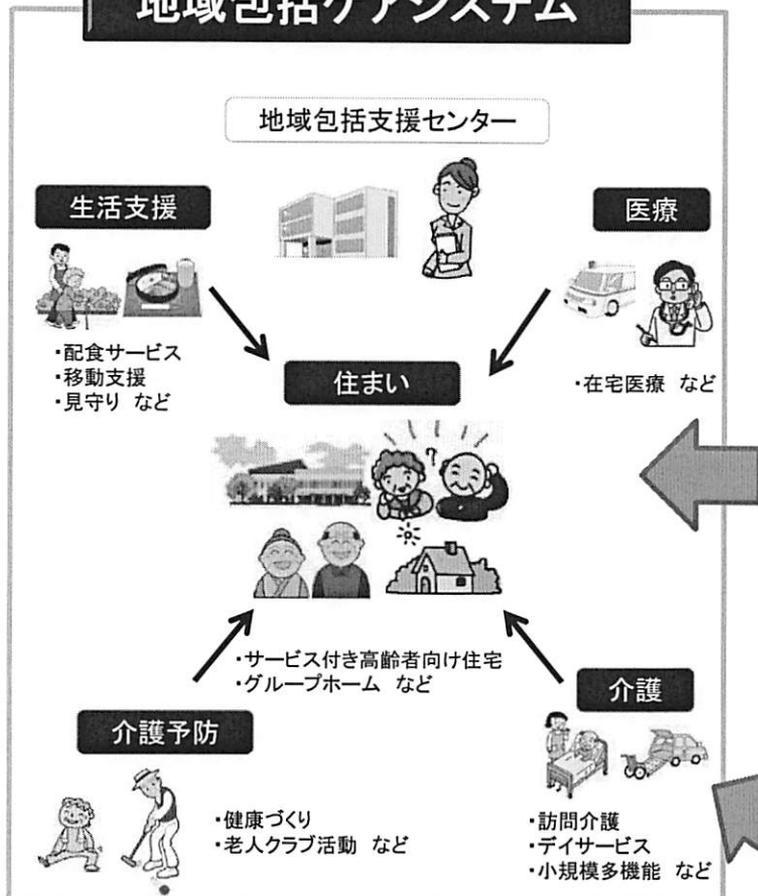


さわやか福祉財団  
会長 堀田 力

# 地域包括ケア体制推進総合事業

- ・認知症高齢者や独居・夫婦のみ世帯の高齢者の増加に対応するため、地域での生活をトータルに支え、医療・介護サービス等が一体的に提供される体制を構築
- ・介護保険制度改革による要支援者向けの保険サービスの市町村事業への移行に備え、市町村が地域の実情に応じた地域包括ケアシステムを構築

## 地域包括ケアシステム



## 地域包括ケア体制推進事業

### ①地域包括支援センター職員資質向上事業

職員の資質向上のための研修や地域ケア会議の充実等、地域包括ケア体制構築及び介護保険制度改革(地域支援事業の再編)に対応したセンター機能の強化

### ②訪問看護支援事業

訪問看護コールセンターおかやまの運営支援、訪問看護職員の人材定着支援

### ③認知症高齢者を地域で支える基盤強化事業

認知症に関する専門的な知識・経験を有し地域連携の推進役となるリーダー養成、地域における認知症医療・介護従事者に対する向上研修、当事者や家族に対する支援等

### ④介護予防市町村支援事業

予防給付の市町村事業への移行等を踏まえた効果的な介護予防についての有識者による検討、研修事業等

## 在宅医療連携拠点事業

### ①在宅医療の推進及び課題に対する解決策の検討

医療福祉従事者が一堂に会して地域の課題や対応策等の検討を定期的実施し、「顔の見える関係」を構築

②効率的な医療提供のための多職種連携等  
地域包括支援センター等との連携のもと、多職種連携によるヒューマンネットワークを構築

③在宅医療に関する地域住民への普及啓発  
在宅医療で可能な治療の紹介や、終末期の患者の希望が尊重されるよう、患者が家族及び関係者に書面で伝えておく取組を推進

④在宅医療に従事する人材育成  
療養者の質の高い生活を支えていく人材育成を図るとともに、在宅医療を推進するリーダーを育成

### ⑤効率的で質の高い24時間対応の在宅医療の構築

地域の医療福祉資源を把握し、地域の在宅医療をより効率的に提供するための方策を実施

体制づくり

市町村

## 地域包括ケア体制づくり市町村支援事業

### ①【新】地域包括ケアシステム構築促進事業

ニーズ調査等による地域の現状把握、分析・評価と、その結果を踏まえた地域特性に応じた包括ケア体制構築の取組への市町村助成

### ②中山間地域等在宅介護サービス強化事業

中山間地域等における在宅介護サービスの普及・定着のための市町村助成

# 多様な主体による生活支援サービスの重層的な提供

○高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人、協同組合等の多様な事業主体による重層的な生活支援サービスの提供体制の構築を支援



- ・介護支援ボランティアポイント等を組み込んだ地域の自助・互助の好取組を全国展開
- ・「生涯現役コーディネーター（仮称）」の配置や協議体の設置などに対する支援

## 生活支援サービスの提供イメージ

市町村単位の圏域

小学校区単位の圏域

自治会単位の圏域

介護者支援



外出支援



食材配達



安否確認



家事援助



交流サロン

配食+見守り



権利擁護



声かけ

コミュニティ  
カフェ



移動販売



事業主体

民間  
企業

NPO

協同  
組合

社会福祉  
法人

ボランティア

等

## バックアップ

市町村を核とした支援体制の充実・強化（コーディネーターの配置、協議体の設置等を通じた住民ニーズとサービス資源のマッチング、情報集約等）

⇒ 民間とも協働して支援体制を構築